

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）

分担研究報告書

研究分担者 安斉俊久（北海道大学大学院医学研究院・教授）

特発性心筋症に関する調査研究

研究要旨

本研究班は、1974年に旧厚生省特定疾患調査研究班として、特発性心筋症の疫学・病因・診断・治療を明らかにすべく設立され、その後約40年間継続して本領域での進歩・発展に大きく貢献してきた。本研究は、心筋症の実態を把握し、日本循環器学会、日本心不全学会と連携し診断基準や診療ガイドラインの確立をめざし、研究成果を広く診療へ普及し、医療水準の向上を図ることを目的とした。研究班による全国規模での心筋症のレジストリー、特定疾患登録システムの確立を推進準備し、心筋症をターゲットとした登録観察研究であるサブグループ研究を開始し、登録をすすめた。また、研究成果の社会への還元として、ホームページ公開や市民公開講座を行った。

A. 研究目的

特発性心筋症患者の臨床的特徴に関して、血行動態検査、バイオマーカー、各種画像検査などを通じて明らかにすること。

B. 研究方法

2014年2月から2017年12月の間に北海道大学病院に精査加療のため入院し、右心カテーテル検査と心エコー図検査を施行された慢性心不全患者を含む連続169を対象とし、視覚的な僧帽弁および三尖弁の解放タイミングから導かれるスコア（VMTスコア）と肺動脈楔入圧（PAWP）の関連を検討した。

（倫理面への配慮）

当大学における倫理審査にて承認を得た。

C. 研究結果

右心カテーテル検査におけるPAWPとVMTスコアに有意な正相関を認めることを明らかにした。また、VMTスコアはPAWP高値を高精度に予測可能であること、VMTスコア高値を示す症例は低値である症例と比較して心血管イベント発生率が有意に高いことが明らかになった。VMTスコアは非侵襲的な心不全診断法となり得る可能性を示唆した。

D. 考察

本研究は、心不全診断において重要な指標であるPAWPをVMTスコアで非侵襲的に推定できることを世界で初めて評価した報告である。今回我々は、VMTスコアがPAWPと有意に正相関すること、さらに同スコアが心不全患者の予後層別に有用であることを示した。これらの知見から、VMTスコアは心不全診断そして予後層別に有用である可能性が示唆された。

E. 結論

VMTスコアによるPAWP推定は、特発性心筋症などの慢性心不全における新たな心不全診断および予後層別法として有用であると考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 学会発表

1. 論文発表

1. Murayama M, Iwano H, Nishino H, Tsujinaga S, Nakabachi M, Yokoyama S, Aiba M, Okada K, Kaga S, Sarashina M, Chiba Y, Ishizaka S, Motoi K, Nishida M, Shibuya H, Kamiya K, Nagai T, Anzai T. Simple Two-Dimensional Echocardiographic Scoring System for the Estimation of Left Ventricular Filling Pressure. *J Am Soc Echocardiogr* 2021 Jul;34(7):723-734.

2. 学会発表（発表誌面巻号・ページ・発行年等も記入）

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他